施策の評価シート（令和５年度分）

1　計画における位置付け

政策体系	総合計画	目標	05	自分らしく心豊かに輝けるまちづくり		
		基本政策	10	生涯を通じた学びの推進	管理コード	051032
		施策	32	高等教育機関との連携・充実	本冊ページ	80
	関連個別計画		津市教育振興ビジョン後期基本計画			
担当部局			政策財務部、三重短期大学、教育委員会			
施策の内容（番号）			101	～	102	

2　「施策の内容」の総合評価と今後の方向性

番号	施策の内容	「施策の内容」の総合評価 選択区分	今後の方向性 選択区分	担当課
101	高等教育機関が有する知的資源を活用し、地域の産業、文化、教育等の振興につなげるとともに、地域を支える人材の育成や若者の本市への定住、新しい事業の創出等に向けた、産学官の連携を推進します。	A	①	生涯学習課
102	三重短期大学は、今後の社会経済情勢に対応しながら、人材や地域とのつながりを育み、地域に根付き地域に開かれた高等教育機関としての役割を果たしていきます。	A	①	大学総務課

※「施策の内容」の総合評価…A=80点以上、B=60点以上80点未満、C=40点以上60点未満、D=20点以上40点未満、E=20点未満
※今後の方向性…①=効果的な事業構成であるため、方向性を維持、②=概ね効果的な事業構成であるが、一部見直し等の余地がある、③=あまり効果的な事業構成ではないため、見直しの余地が大きい、④=事業構成に問題があるため、抜本的な見直し等が必要

3　「施策」の総合評価

	区分	選択区分	総評（施策の進捗状況や効果等を端的に記載）
「施策の内容」の総合評価を根拠とした「施策」の総合評価	A　80点以上 B　60点以上80点未満 C　40点以上60点未満 D　20点以上40点未満 E　20点未満	A	社会教育機関及び学識経験者の協力を得て文学講座や歴史講座を開催し、受講者アンケートの結果では約90%の方から満足という結果を得ました。また、三重短期大学における地方自治体等と連携した政策研究研修の実施、地域のシンクタンク機能の充実による地域貢献、地域開放型の地域連携講座等への参加者は延べ1,100人を超えるなど、高等教育機関との連携・充実に向けた取組が進みました。

※総合評価は、「施策の内容」の総合評価をポイント化したものをベースに自動的に判定しています。

計画期間における達成状況

年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
総合評価	A	A	C	A	A	A				

※計画期間である平成30年度（2018年度）から令和9年度（2027年度）の本施策の内容に関する推移を示します。

施策の内容評価シート（令和5年度分）

1　計画における位置付け

政策体系	総合計画	目標	05	自分らしく心豊かに輝けるまちづくり		
		基本政策	10	生涯を通じた学びの推進	管理コード	051032101
		施策	32	高等教育機関との連携・充実	本冊ページ	80
	関連個別計画		津市教育振興ビジョン後期基本計画（令和5年度～令和9年度）			
担当部局			政策財務部、教育委員会			
施策の内容（第2次基本計画）※目指す方向性・各事業の実施により期待される効果			101	高等教育機関が有する知的資源を活用し、地域の産業、文化、教育等の振興につなげるとともに、地域を支える人材の育成や若者の本市への定住、新しい事業の創出等に向けた、産学官の連携を推進します。		

2「施策の内容」に係る主な事業の評価（事務事業評価）

番号	事業名	担当課	事業の内容		事業の目的	事業の評価		事業の振り返りとこれから（実施評価、事業評価、今後の方向性を選んだ理由）
				効	事業の実施により直接的に表れる効果	◆ 当初の事業実施計画	実施評価	
				誰	誰のための事業か	◇ 事業評価の主な視点	事業評価	
				何	何のための事業か	決算額（千円）	今後の方向性	
101-1	生涯学習講座開催事業	生涯学習課	専門化・高度化する市民の学習ニーズへ対応するため、社会教育機関及び高度な学識経験者にご協力いただき、様々なテーマの専門講座を開催	効	高等教育機関等と協力し、歴史講座・文学講座を開催し、専門化・高度化する市民の学習ニーズへ対応する□	◆ 様々なテーマの専門講座を年2回開催	◎	文学講座と歴史講座を開催し、受講者へのアンケート結果では89%の方から満足という結果を得たため、実施・事業評価ともに「◎」とした。今後も市民のニーズの把握に努め、様々なテーマの講座を開催していく。
				誰	市民	◇ 受講者へアンケート（満足度等）	◎	
				何	専門講座を受講できる機会が増える	31（千円）	現状維持	
101-2				効		◆		
				誰		◇		
				何		（千円）		
101-3				効		◆		
				誰		◇		
				何		（千円）		
101-4				効		◆		
				誰		◇		
				何		（千円）		
101-5				効		◆		
				誰		◇		
				何		（千円）		

施策の内容評価シート（令和5年度分）

101-6			効		◆		
			誰		◇		
			何		（千円）		
101-7			効		◆		
			誰		◇		
			何		（千円）		
101-8			効		◆		
			誰		◇		
			何		（千円）		
101-9			効		◆		
			誰		◇		
			何		（千円）		
101-10			効		◆		
			誰		◇		
			何		（千円）		

※実施評価（計画どおり実施したか）…◎=計画を達成（100%以上） ○=概ね計画どおり（80%以上～100%未満） △=計画を下回った（50%以上～80%未満） ×=計画を大きく下回った（50%未満）
※事業評価（効果があったか）…◎=大いに効果が認められる ○=ある程度の効果が認められる △=あまり効果がなかった/事業完了前につき効果の発現に至っていない ×=効果を測定できない
※今後の方向性…（さらなる）拡充・充実、現状維持、見直し、廃止、完了

3 「施策の内容」の総合評価

	区分	選択区分
実施評価・事業評価を根拠とした「施策の内容」の総合評価	A 80点以上 B 60点以上80点未満 C 40点以上60点未満 D 20点以上40点未満 E 20点未満	A

4 今後の方向性

	区分	選択区分
今後の施策の内容の方向性	① 効果的な事業構成であるため、方向性を維持 ② 概ね効果的な事業構成であるが、一部見直し等の余地がある ③ あまり効果的な事業構成ではないため、見直しの余地が大きい ④ 事業構成に問題があるため、抜本的な見直し等が必要	①

※総合評価は、主な事業の実施状況（実施評価）、事業対象者への効果（事業評価）の評価をポイント化したものをベースに自動的に判定しています。
※今後の方向性は、施策の内容の総合評価および主な事業の今後の方向性をベースに自動的に判定しています。

計画期間における達成状況

年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
総合評価	A	A	A	A	A	A				
今後の方向性	①	①	①	①	①	①				

※計画期間である平成30年度（2018年度）から令和9年度（2027年度）の本施策の内容に関する推移を示します。

施策の内容評価シート（令和5年度分）

1　計画における位置付け

政策体系	総合計画	目標	05	自分らしく心豊かに輝けるまちづくり		
		基本政策	10	生涯を通じた学びの推進	管理コード	051032102
		施策	32	高等教育機関との連携・充実	本冊ページ	80
	関連個別計画					
担当部局			三重短期大学			
施策の内容（第2次基本計画）※目指す方向性・各事業の実施により期待される効果			102	三重短期大学は、今後の社会経済情勢に対応しながら、人材や地域とのつながりを育み、地域に根付き地域に開かれた高等教育機関としての役割を果たしていきます。		

2「施策の内容」に係る主な事業の評価（事務事業評価）

番号	事業名	事業の内容	事業の目的		事業の評価		事業の振り返りとこれから（実施評価、事業評価、今後の方向性を選んだ理由）
	担当課		効	事業の実施により直接的に表れる効果	◆ 当初の事業実施計画	実施評価	
			誰	誰のための事業か	◇ 事業評価の主な視点	事業評価	
			何	何のための事業か	決算額（千円）	今後の方向性	
102-1	地域貢献推進事業	地方自治体等と連携した政策研究研修の実施、地域のシンクタンク機能の充実による地域貢献の推進や地域開放型の地域連携講座等開催	効	生涯学習機会の増加、地域社会が求める人材の養成、市民文化の向上、地域・産業の活性化	◆ 地域連携講座、政策研究研修等の各種講座20回の開催	◎	令和5年度は市政や企業との連携による研修及び事業を展開することができた。また地域開放型の各種講座を30回開催し、市民参加者数は延べ1,112人となった。現状維持での実施によって、前年度以上の各種講座数及び参加者数を目指す。
			誰	地域社会や住民	◇ 参加人数	○	
	大学総務課		何	地域問題の解決や生涯学習の振興に資する高等教育の受講機会等の増加	987（千円）	現状維持	
102-2			効		◆		
			誰		◇		
			何		（千円）		
102-3			効		◆		
			誰		◇		
			何		（千円）		
102-4			効		◆		
			誰		◇		
			何		（千円）		
102-5			効		◆		
			誰		◇		
			何		（千円）		

施策の内容評価シート（令和5年度分）

102-6			効		◆		
			誰		◇		
			何		（千円）		
102-7			効		◆		
			誰		◇		
			何		（千円）		
102-8			効		◆		
			誰		◇		
			何		（千円）		
102-9			効		◆		
			誰		◇		
			何		（千円）		
102-10			効		◆		
			誰		◇		
			何		（千円）		

※実施評価（計画どおり実施したか）…◎=計画を達成（100%以上） ○=概ね計画どおり（80%以上～100%未満） △=計画を下回った（50%以上～80%未満） ×=計画を大きく下回った（50%未満）
※事業評価（効果があったか）…◎=大いに効果が認められる ○=ある程度の効果が認められる △=あまり効果がなかった/事業完了前につき効果の発現に至っていない ×=効果を測定できない
※今後の方向性…（さらなる）拡充・充実、現状維持、見直し、廃止、完了

3 「施策の内容」の総合評価

	区分	選択区分
実施評価・事業評価を根拠とした「施策の内容」の総合評価	A 80点以上 B 60点以上80点未満 C 40点以上60点未満 D 20点以上40点未満 E 20点未満	A

4 今後の方向性

	区分	選択区分
今後の施策の内容の方向性	① 効果的な事業構成であるため、方向性を維持 ② 概ね効果的な事業構成であるが、一部見直し等の余地がある ③ あまり効果的な事業構成ではないため、見直しの余地が大きい ④ 事業構成に問題があるため、抜本的な見直し等が必要	①

※総合評価は、主な事業の実施状況（実施評価）、事業対象者への効果（事業評価）の評価をポイント化したものをベースに自動的に判定しています。
※今後の方向性は、施策の内容の総合評価および主な事業の今後の方向性をベースに自動的に判定しています。

計画期間における達成状況

年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
総合評価	A	A	E	B	B	A				
今後の方向性	①	①	①	①	①	①				

※計画期間である平成30年度（2018年度）から令和9年度（2027年度）の本施策の内容に関する推移を示します。

.